

黄色系キンギョソウの摘心位置および回数、株間が開花特性に与える影響

岡澤立夫・吉岡孝行^a

(生産技術科)^a 現研究企画室

【要 約】キンギョソウは1節摘心よりも2節摘心の方で開花が早まる。また、1回半摘心は無摘心栽培と比べ開花を約2週間、2回摘心は2ヵ月遅らせる。3月彼岸出荷には株間20cmでは1節2回摘心が、15cmでは2節2回摘心が適する。

【目 的】

都内ではホームユースフラワーを中心に切り花栽培が増えているが、キンギョソウでは、年内出荷を行った後切り戻し6月出荷を行う2度切り栽培が主流であり、冬季出荷は少ない。そこで、直売所で人気のある黄色系キンギョソウにおいて収穫適期をずらし、出荷幅を広げるとともに、需要の高い3月彼岸出荷に向けた適正な摘心栽培法を明らかにする。

【方 法】

供試品種は、‘クールイエロー、メリーランドブライトエロー、アスリートイエロー、リリアンイエロー、カリヨンクリームイエロー（以下、クール、メリー、アスリート、リリアン、カリヨン）、黄仙、春仙’。2005年7月27日、ピートバンに播種し、8月9日に128穴セルトレイに仮植した。摘心区では8月29日に摘心し、9月9日に定植した。株間は15cmと20cmの2区を設けた。施肥量は基肥を10aあたり $N-P_2O_5-K_2O=17-13-8$ kgとし、追肥は液肥(N:30ppm)をおおよそ2週間に1回施用した。定植後の摘心は10月13日に行った。温度は最低5℃とした。試験区は無摘心区を含め7区を設け(図1)、3連制とした。図表は紙面の関係で、品質に最も優れた‘アスリート’を中心に記載した。

【成果の概要】

- 1) 株あたりの収穫本数は1節摘心より2節摘心で多く、1節摘心では摘心回数が多いほど、2回摘心では2節のみで最も多く、ついで2節2回だった。これは株間によらず同じ傾向を示した。また、株間15cmより20cmの方で収穫本数は高く、多いもので2倍程度の差である。品種別にみると、‘メリー’20cm区で7.9本と最も高い(表1)。一方、草丈等の生育特性は摘心位置、回数より株間の違いによる影響の方が大きい(データ略)。
- 2) 摘心方法で開花時期は異なり、1節摘心より2節摘心で開花が概ね2週間早まった。摘心回数を増やせば開花時期は遅くなり、1回半摘心で約2週間、2回摘心で約2ヶ月開花が遅れる(図2、表2)。また、最も早く収穫できる収穫位置の開花日を比較すると、株間20cmが15cmより開花が早まる傾向にあった(表2)。
- 3) 開花は無摘心が最も早い。‘アスリート’では早く10月中旬から始まり、‘黄仙’では最も遅く11月下旬であった(データ略)。前述のとおり、株間は開花に影響を与えるが、収穫本数の増減傾向は株間によらず同様であった。3月彼岸出荷を狙うには、株間20cmでは1節2回摘心が、15cmでは2節2回が最も多く収穫できた(図2)。
- 4) まとめ：摘心位置および回数は開花特性に影響を与え、摘心位置が高くなるほど、回数が少なくなるほど開花が早まる。また、株間が広がるほど開花は早まる。このように、キンギョソウは、摘心位置および回数、株間を変えることで、開花時期を調節できる。

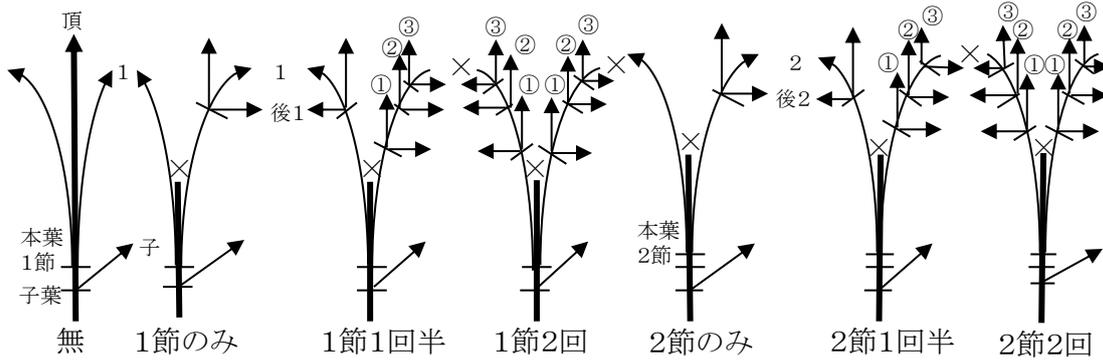


図1 キンギョソウの摘心方法

注) 図中の頂, 子, 1, 2, ①, ②, ③, 後1, 後2は発生位置を, ×は摘心したことを示す

表1 株間と摘心方法の違いが1株あたりの収穫本数に与える影響

品種名	株間	無	1節のみ	1節1回半	1節2回	2節のみ	2節1回半	2節2回
アスリート	15	2.7	2.3	1.4	3.2	5.0	3.2	4.4
	20	3.2	2.1	2.7	4.7	5.3	4.2	3.9
クール	15	3.1	3.0	2.7	3.8	5.9	3.7	4.5
	20	3.3	4.1	3.2	5.7	5.5	4.8	5.8
リアン	15	3.2	2.3	2.4	3.5	6.9	4.1	4.3
	20	4.0	3.3	3.5	5.4	7.7	5.6	5.9
メー	15	2.2	2.4	2.3	2.8	5.5	3.7	3.2
	20	2.2	2.8	3.2	5.3	7.9	4.5	6.1
カリオン	15	3.1	2.2	2.6	2.8	6.2	3.9	4.4
	20	4.2	2.6	3.3	5.3	6.3	5.2	6.6
春仙	15	2.9	2.5	2.3	3.3	4.7	3.9	3.7
	20	3.7	3.4	3.0	5.3	7.2	5.3	5.8
黄仙	15	2.1	2.4	1.8	2.3	5.7	2.6	3.3
	20	2.8	2.5	2.8	3.4	6.3	4.1	4.1

注) 単位は株間がcm, その他は本/株

表2 株間と摘心方法の違いが発生位置別開花日に及ぼす影響

株間	15cm										20cm								
	頂	1	2	子	①	②	③	後1	後2		頂	1	2	子	①	②	③	後1	後2
無	11/6	3/24	-	3/13	-	-	-	-	-	-	11/2	3/4	-	3/9	-	-	-	-	-
1節のみ	-	12/23	-	3/15	-	-	-	-	-	-	-	12/18	-	4/10	-	-	-	3/2	-
1節1回半	-	1/12	-	3/29	3/7	3/9	3/1	-	-	-	-	1/6	-	3/29	2/21	3/4	2/19	4/6	-
1節2回	-	-	-	3/21	2/17	3/4	2/28	-	-	-	-	-	-	3/26	3/17	3/2	2/16	-	-
2節のみ	-	-	12/16	4/4	-	-	-	-	4/10	-	-	3/15	12/15	3/25	-	-	-	-	-
2節1回半	-	3/8	1/15	3/19	-	2/28	2/19	-	-	-	-	4/4	12/30	3/26	2/7	3/3	2/19	-	-
2節2回	-	3/19	-	3/25	3/5	2/28	2/27	3/23	-	-	-	3/22	-	3/27	2/3	2/16	2/14	-	-

注1) データは'アスリート'

注2) 斜体太字は各処理区の中で最も早く開花した発生位置の平均開花日

注3) -はその部位での発生が見られないことを示す

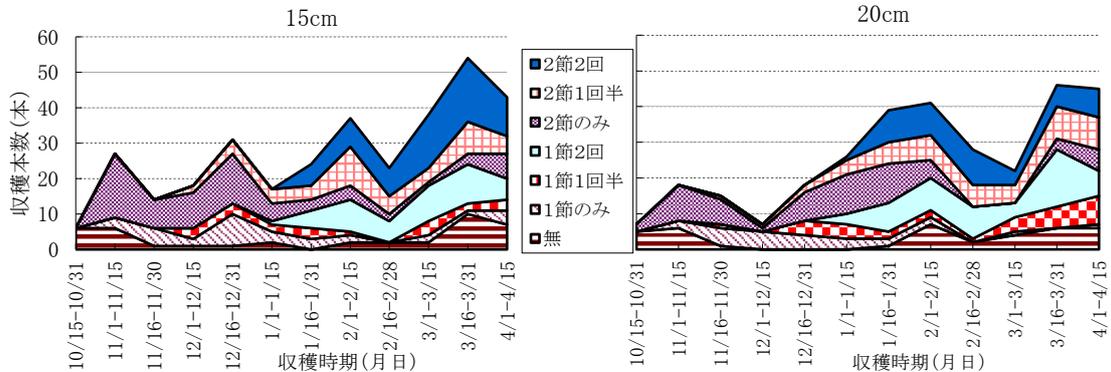


図2 株間と摘心方法の違いが開花日に及ぼす影響

注1) データは'アスリート'

注2) 縦軸の収穫本数は各処理区を積算したもののだが、その数値自体意味はない。各処理区の収穫時期毎の本数が意味をなす